

パルシステムの新農業政策及び事業の展開

パルシステム生活協同組合連合会
産直事業部 田崎 愛知郎

(1) パルシステム概要

エリア：1都7県（東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、静岡、群馬、福島）
 会 員：東京マイコープ、神奈川ゆめコープ、エルコープ、ドゥコープ、ユーアイコープ、ハイコープ、
 コープやまなし、パルシステム群馬、いわき市民生協、パルシステム静岡（10会員）
 組合員数：1,046,803人（店舗・共済事業を含む）
 供給高：1,654億円（前年比110%）
 本 部：東京都文京区小日向4-5-16

(2) パルシステム理念

基本理念：心豊かなくらしと共生社会を創ります
 事業理念：環境と調和した事業を進め、協同の力で組合員のくらしに貢献します
 組織理念：「多様性の共存」を大切にし、協同連帯の輪を広げます。
 より多くの組合員の参加と、社会に開かれた運営を実現します

(3) 新農業政策の展開-その一

1995年 予約登録米制度スタート 94年の米パニックを課題化
 1998年「農薬削減プログラム」による「20の優先排除と14の問題農薬」を策定・スタート
 1998年「theふード」の展開スタート 全供給高の1%
 めざす5つの視点 自然や生きるものみんなに優しい食料生産 食料の国内自給と輸入 安全
 な食生活 共生の価値観にもとづいた地域との提携 暮らし方の改善
 1999年「公開確認会」スタート
 生産者と消費者がより深く理解しあうための交流の発展的仕組み。「生産者主体」「2者認証」「組合員参加」「公開性」を特徴とします。 65産地にて実施

(4) 「首都圏コープ食料と農業政策」策定

2000年3月31日連合理事会決定
 農業が食料生産の根幹であり、食料と農業は統一的に把握し、その主体を生産者、消費者の両者を生活者として統一に捉え、新たなパートナーシップを確立して21世紀の食料・農業問題に取り組む。
 2000年7月 新農業事業推進室を設置
 同年9月-01年3月 「新農業事業推進プロジェクト」を設置し04年4月からの新農業政策に基づく活動領域についてグループでの討議。交流事業タスク、おから飼料タスク、交流事業タスクの3専門タスクと、事業系のふードタスクが5つの事業・活動について理事会報告（プロジェクト答申）を行う。

(5) 新農業事業の展開-その二

2002年4月から06年6月 新農業事業推進委員会
 答申に基づき、「theふード」を核とした産直品の拡大 資源循環・環境保全型農業モデルの推進
 交流事業の本格的事業化 おから飼料化事業 堆肥事業化の5つをテーマとし、事業系との連携にて推進してきた。
 2006年7月から現在まで 新農業委員会
 これまでの活動総括とグローバル化の進行、地球環境危機の深まり、農政転換などの情勢を踏まえ、新たな展開を「ふード部会」「交流部会」「生きもの調査部会」の3部会を基点として推進している。

(6) 生きものの視点から環境と農業、そして暮らし・地域を見直す-その一

新農業事業として推進してきた各領域について生きものの視点=生物多様性の視点からの商品事業、交流事業、地域農業モデルの全般に見直しを推進していく。

推進課題事例

「ふーどの牛肉」 ノーザンびーふ産直協議会ふーど部会

アンガス種の地元産素牛導入。飼養管理はアニマルウエルフェアの視点を重視し、環境と畜産動物の生理、健康から評価し、草地放牧・自然分娩とする。飼料については粗飼料を主体とし、農場産のデントコーン、とうもろこしと食品副産物を醗酵させたものとした100%自給。赤身の深い味わい。予約登録制(毎月)で2600名に供給。

「ふーどの卵」 生消協ふーど鶏卵部会(青森から関東圏の8生産者組織)

やまなしおから飼料化会議として、山梨県畜産試験場、県内5養鶏生産者組織PB商品の豆腐メーカー(山梨・共生食品)、地域生協、パルシステムと3年の試験事業として醗酵飼料の標準化を取り組む。現在は、各農場ごとに醗酵機を入れ本格化。おから(国産)を資源として米ヌカ、ふすま、魚粉などを醗酵飼料として生産者によるが、1%~38%給餌、緑餌を加える。又、平飼-運動場を旨とした飼養管理ことで健康な鶏、味の良い卵として伸長している。その後、各地の平ふーどの飼生産者でも取り組み全体化している。

予約登録制(毎週)で33000名に供給。

「ふーどの有機野菜セット」 近郊3産地の有機野菜セット部会

有機JAS認証の産地、100%出資の青果・米専門会社である(株)ジーピーエスのJAS小分けを含め、毎週6品の季節に合わせた野菜セット。現在、青果物の各産地では「美味しさプロジェクト」として植物生理に合わせた肥培管理、醗酵による微生物を活かした農法に取り組んでいる。

予約登録制と紙面供給(毎週)で平均4000名に供給

「海を守るふーどの森づくり野付植樹協議会」-「ふーどのホタテ」

1999年からふーど商品の開発に向け、「森と川と海はひとつ」、畜産による開発での水質悪化への「100年かけて」の自然再生として漁協婦人部からは始まった植樹事業に組合員が参加する植樹事業に発展。基金制度(商品案内募集とポイント制で約1千万円)をつくり、2000年から地域と共に「産地にいこう!」で参加者を募る。産地では3輪4駆として湾内を畑に見立て栽培漁業とし資源管理と環境保全を行い、協同精神に基づく持続的な沿岸水産業を行う。2005年には漁場はラムサール条約に登録され、賢明な利用として交流事業の深化が期待される。

(7) 生物多様性農法と田んぼの生きもの調査

会員生協は主に「ふーど米」産地と毎年、田植え、草取り、稲刈り、サマーキャンプなど農業体験と地域を知る交流を古くは25年間継続している。(12地域と各会員生協)

「生きもの観察会」を交流事業化の一環として実施し、02年7産地、03年4産地で取り組みを実施「生きもの観察会」お楽しみ企画のひとつとして定着。

2003年秋、NPO法人メダカのがっこうのプレゼンとして冬期湛水管理による「生物多様性農法」と「田んぼ生きもの調査」と出会う。

2004年 新農業委員会はふーど産地に「新たな農法の試験栽培と生きもの調査」を提起し、4産地が開始する。05年に2産地、06年に2産地、07年3産地が加わり、11産地にて推進中。

2007年から3年の中期活動計画 別紙

地域での「環境と農業の共生」を目指し、活動又、その拡大に向けた組織への活動支援としての民間版環境直接支払いの検討。

(8)「田んぼの生きもの調査プロジェクト」の開始

2005年 「田んぼの生きもの調査プロジェクト」をパルシステム、JA全農、NPO法人たんぼ、NPO法人民間稲作研究所、(社)農村環境整備センター、(株)アレフ、生活クラブ生協など10団体と共に結成し、全国に拡大を進めている。

事務局団体：JA全農、パルシステム

2006年 生きもの調査を行い、生物多様性農法については課題とする産地を含め42産地が実施する。地域では複数の生産者、自然保護団体、研究者、農業高校、NPOなど多様な団体が加わり、地域の総合学習の時間、学校田などでの実施が多く見られた。韓国、中国との協同した取組みも実施。

2007年は全国プロジェクトとネットワークする「田んぼの生きもの調査プロジェクト・四国」が活動を開始。

2007年度活動計画 別紙 参加組織は現在約60産地、約100調査実施の見込み。

3年目に入り、プロジェクト活動の質的、量的拡大への持続性を持った「生物多様性農業支援センター(仮称)」の組織化が急務の課題。

別紙

2007年度 パルシステム新農業委員会活動方針

(1) 目的

生きものと共生する農業の価値を広げます。
 生物多様性農法の研究と普及を目指します。
 環境保全型農業を推進するシステムを創ります。

(2) 課題(方針)

課題1：田んぼ交流に生きもの調査を取り入れていきます

会員生協の田んぼ交流に、田んぼの生きもの調査も農業体験として位置づける。(生産者にとっては農業技術として生きもの調査を位置づける)主に“農の恵み調査”として命のつながりを思い起こし、人と人、生きものとの交流、伝統文化、景観に触れ共感できる企画づくりを目指します。

2007年度 田んぼ交流(ふーど米産地)

	実施組織	取組年数	生産者組織	交流・結びつき生協
1	(JAつくば市谷田部)食と緑交流推進協議会	1年	JAつくば市谷田部	茨城ハイコープ
2	JA山形おきたま	1年	JA山形おきたま	東京マイコープ
3	JAいわて花巻	1年	JAいわて花巻	パルシステム神奈川ゆめコープ
4	藤崎町食と農に関する協定事務局	2年	JA常盤村	東京マイコープ
5	秋田南部圏食と農推進協議会	2年	JAこまち・JA秋田ふるさと	エルコープ・東京マイコープ
6	庄内環境創造型農業推進会議	3年	JA庄内たがわ/庄内協同ファーム 他2組織	ユーアイコープ
7	ECO研究会	3年	やよいフィールド*スタッフ・謙信の郷・ JAえちご上越	東京マイコープ
8	コガ虫の会	4年	花咲農園・オーリア21	コープやまなし
9	JAささかみ	4年	JAささかみ	パルシステム(全会員)
10	JAみどりの	4年	JAみどりの	パルシステム神奈川ゆめコープ
11	ちば緑耕舎	4年	ちば緑耕舎	エルコープ

生きものと共生する農業の価値を広めていく会員生協活動である、神奈川ゆめコープがNPO小田原食とみどり「田んぼの学校」の取組み、コープやまなし食育プロジェクト「めざせ！食べもの博士養成講座」-食育の取組み。ドゥコープと南埼玉産直ネットワークとの「農業体験と生きもの観察会」に協力していきます。

課題2：生きもの調査講習会(生物多様性の考え方、調査手法の具体的方法など)を実施します

委員会活動として田んぼの生きもの調査講習会(フィールドワーク付)を実施します。

大潟村公開確認会に田んぼと地域の環境評価可能性を目指し、「田んぼの生きもの調査」試験的实施を行う。

課題3：“生物多様性農法と田んぼの生きもの調査”を全体の米産地に提起していきます

全体の産地に呼びかけ、11産地(07年度)が参加しています。

課題4：「有機農業推進法」「農地・水・環境保全向上対策」の積極的推進、参加を進めます

「農地・水・環境保全向上対策」が、環境保全型農業や生きもの調査活動を対象とし、地域の農外関係者と

の協同を進めようとしていることをについて受け、共に進めます。

「有機農業推進法」が、有機農産物の生産技術確立と普及育成に踏み出したことに賛同し、協同して取り組みます。

「有機農業推進法」「農地・水・環境保全向上対策」の政策が、生物多様性や地域循環型の農業を推進するものとなるように積極的に発言し地域での取組みに参加していきます。

課題5：生物多様性農業を支える、ふーど米の取組みを拡大します。

生消協は米部会の決定として、「ふーど米研究会」を設置し、生物多様性農法の栽培技術の確立と普及を目指し活動を開始しています。

ふーど米拡大の中期方針を持ち、3年を目処に1000トンの生産が可能な環境を整えていきます。

課題6：全国の有機農業・環境保全型農業の生産者との連帯、さらにアジア地域での生きもの調査を通じた交流を推進します。

第8回日韓中環境創造型稲作会議・第2回日韓田んぼの生きもの調査交流に参加します。

パルシステム産地にとどまらず、全国の有機農業者、環境保全型農業の生産者と交流連帯を深め、国内自給と地域農業の自立的な発展を目指すアジアの生産者・消費者との交流・連帯を進めます。

2007年度田んぼの生きもの調査プロジェクト活動計画

4月17・18日 「田んぼの生きもの調査交流・インストラクター研修会」

4月-8月 生きもの調査フィールド指導・支援-指導者・インストラクター派遣
登録された各産地へ支援・協力

6月23日-24日 2007年度・栽培技術現地研修会(北海道) 北海道当別市

7月1日-2日 2007年度・栽培技術現地研修会(関西地区) 滋賀県野洲町・高島町

7月7日-8日 2007年度・栽培技術現地研修会(東北地区) 岩手県大東町
NPO法人民間稲作研究所主催・プロジェクト協力

8月3-6日 第8回東アジア環境創造型稲作技術会議及び
第2回日韓田んぼの生きもの調査交流

11月(?) 実践研究会～栽培技術・調査データの営農活用と生きもの調査手法
農地水対策との連携

11月23日 第4回 田んぼの生きもの調査全国シンポジウム

12月-2月 07年度栽培技術研修会(営農・栽培技術学習)
統一・地域別研修会の実施

3月-4月 07年度生きもの調査インストラクター研修会
(調査インストラクター養成)
統一・地域別研修会の実施

